

英語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	前期 金曜日 1 講時	
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	島 越郎	後期 金曜日 1 講時	
英語学基礎講読	英語学の基本概念Ⅰ	2	金子義明	後期 火曜日 4 講時	
英語学基礎講読	英語学の基本概念Ⅰ	2	金子義明	前期 火曜日 4 講時	
英語学各論	統辞法の対称化をめぐる諸問題	2	成田 広樹	通年集中 その他 連講	
英語解析学各論	英語の主要構文の研究	2	金子義明	後期 金曜日 4 講時	
英語学講読	形態論入門Ⅰ	2	島 越郎	前期 火曜日 2 講時	
英語学講読	形態論入門Ⅱ	2	島 越郎	後期 火曜日 2 講時	
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅰ	2	金子 義明 島 越郎	前期 水曜日 2 講時	
英語学演習	英語統語論：極小主義によるアプローチⅠ	2	金子 義明	前期 金曜日 2 講時	
英語学演習	英語統語論：極小主義によるアプローチⅡ	2	金子 義明	後期 金曜日 2 講時	
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	金子 義明 島 越郎	後期 水曜日 2 講時	

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB35103 科目ナンバリング：LHM-LIN201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論入門 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Syntax I

3. 授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is an introduction to the formal analysis of syntactic structures of English within a framework of Generative Grammar. We will also see the sound system and historical change of English.

5. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand three aspects of English: basic concepts of syntax, the sound system and the history and development.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：英語の普遍性と特殊性

第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論

第4回：英語音声の基本的特徴

第5回：英語の綴り字と発音

第6回：英語のリズムとイントネーション

第7回：文をつくる規則：句構造規則

第8回：句構造規則と文法

第9回：構成素について

第10回：樹形図と構造関係

第11回：構造関係に基づく文法原理

第12回：文、樹形図、文法原理の関係

第13回：品詞と歴史的变化

第14回：語彙と意味の歴史的变化

第15回：まとめと期末試験

8. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

9. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

10. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB45104 科目ナンバリング：LHM-LIN201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論入門 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Syntax II

3. 授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is a continuation of Introduction of English Syntax I, focusing on the formal analysis of syntactic structures of English within a framework of Generative Grammar. We will also see the sound system and historical change of English.

5. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand three aspects of English: basic concepts of syntax, the sound system and the history and development.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン

第3回：音韻・意味素性、主要部、句について

第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割

第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い

第8回：複文構造の歴史的变化

第9回：発音されない代名詞と歴史的变化

第10回：名詞句の構造と歴史的变化

第11回：句構造規則から X 理論へ

第12回：Wh 疑問文における移動操作

第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化

第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点

第15回：まとめと期末試験

8. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

9. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

10. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：金子義明

コード：LB42403 科目ナンバリング：LHM-LIN207J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の基本概念 I

2. Course Title (授業題目)：Fundamental Notions of English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な概念の理解をめざす。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability to read English texts with accuracy and understand the basic concepts of English linguistics, through intensive reading of English texts on English linguistics.

5. 学習の到達目標：

①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく

②批判的英文読解法が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand fundamental perspectives and basic notions of English linguistics and develop the ability to read research papers from critical viewpoints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：導入

第3回：屈折によるムード

第4回：分析的ムード：法助動詞の形式的特性

第5回：分析的ムードによる法的意味の範疇 (1)：認識様態の意味 vs. 非認識様態的 (根源的) 意味

第6回：分析的ムードによる法的意味の範疇 (2)：can と could

第7回：分析的ムードによる法的意味の範疇 (3)：may と might

第8回：分析的ムードによる法的意味の範疇 (4)：must, will, would

第9回：分析的ムードによる法的意味の範疇 (5)：shall と should

第10回：分析的ムードによる法的意味の範疇 (6)：法的意味の分類 (1)：Coates (1983)等の分析

第11回：分析的ムードによる法的意味の範疇 (7)：法的意味の分類 (2)：Palmer (2001)等の分析

第12回：分析的ムードによる法的意味の範疇 (8)：モダリティと法的意味の分類の理論的問題点

第13回：法助動詞の意味に関わる諸問題 (1)：多義性 vs. 単義性

第14回：法助動詞の意味に関わる諸問題 (2)：法助動詞を含む発話の構成

第15回：まとめとディスカッション

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：Ilse Depraetere and Susan Reed (2006), "Mood and Modality in English" in The Handbook of English Linguistics, ed. by Bas Aarts and April McMahon, pp. 269-290, Blackwell. プリント使用。

10. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと (2時間)。授業後は、内容を確認し、参考書等を活用して問題点を解消しておくこと (2時間)。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：英語学基礎講読／ English Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：金子義明

コード：LB32402 科目ナンバリング：LHM-LIN207J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の基本概念 I

2. Course Title (授業題目)：Fundamental Notions of English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な概念の理解をめざす。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability to read English texts with accuracy and understand the basic notions of English linguistics, through intensive reading of English texts on English linguistics.

5. 学習の到達目標：

①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく

②批判的英文読解法が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand fundamental perspectives and basic notions of English linguistics and develop the ability to read research papers from critical viewpoints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：状況アスペクト (1)：状況アスペクトのタイプ

第3回：状況アスペクト (2)：状況アスペクトの時の特性

第4回：視点アスペクト (1)：視点アスペクトの定義づけ

第5回：視点アスペクト (2)：進行相

第6回：視点アスペクト (3)：完了相

第7回：視点アスペクトととの関わりにおける状況アスペクト

第8回：位相アスペクト

第9回：アスペクト理論 (1)：境界性によるアスペクト理論

第10回：アスペクト理論 (2)：関係性によるアスペクト理論

第11回：アスペクト理論 (3)：位相によるアスペクト理論

第12回：アスペクト理論 (4)：アスペクト選択子としての時制

第13回：談話におけるアスペクト (1)：結束性

第14回：談話におけるアスペクト (2)：談話の構造化

第15回：まとめとディスカッション

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：Robert I. Binnick (2006), "Aspect and Aspectuality," in The Handbook of English Linguistics, ed. by Bas Aarts and April McMahon, pp. 244-268, Blackwell. プリント使用。

10. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと (2時間)。授業後は、内容を確認し、参考書等を活用して問題点を解消しておくこと (2時間)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：成田 広樹

コード：LB98812 科目ナンバリング：LHM-LIN301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統辞法の対称化をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：Problems of symmetrizing syntax

3. 授業の目的と概要：現代の統辞法 (syntax) の研究においては、言語事実を記述・予測する言語理論の経験的妥当性を最大限維持しつつ、理論の定式化を極限まで単純化する方策が多角的に探られている。本講義では、言語の基本演算である併合 (Merge) の厳密な対称性に着目し、その再帰的適用によって作り出される素句構造 (bare phrase structure) の諸特性を導き出すより高次の原理を探ることを目的とする。取り上げるテーマは、併合、フェイズ (phase) に基づく周期的転送 (cyclic Transfer)、内心性 (headedness, endocentricity)、ラベル付けアルゴリズム (Labeling Algorithm)、削除、移動 (内的併合)、基準凍結 (Criterial Freezing)、統辞意味インターフェイス (syntax-semantics interface)、内在主義、言語の設計に関わる 3つの要因、および言語理論の極小主義 (the minimalist program for linguistic theory) などを予定している。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In the contemporary study of syntax, a variety of approaches have been put forward to achieve a minimalist formulation of linguistic theory while maximally maintaining its empirical adequacies. This course focuses on the basic operation of syntax, Merge, with its strictly symmetric formulation, and explore how various properties of bare phrase structure (recursive Merge-based syntax) follow from some more fundamental principles with broader empirical applications. Topics to be discussed include Merge, cyclic Transfer by phase, headedness/endocentricity, Labeling Algorithm, deletion, movement (Internal Merge), Criterial Freezing, syntax-semantics interface, internalism, three factors in language design, and the minimalist program for linguistic theory.

5. 学習の到達目標：

本講義の目標は、統辞理論構築において、仮説理論の演繹構造を総合的に評価しながら研究を進めることの重要性や有用性を理解することにあります。また、本講義で取り上げた理論的概念や研究手法を学び、自分の研究に活かすための基礎を築くことも目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to understand why it is important and useful to explore theories of syntax with an eye on overall deductive structures of theoretical constructs. Students are also expected to learn the theoretical notions and the research methods discussed in the course and form the foundations for applying them in their own research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(適宜進捗状況や議論の内容に基づいて扱う内容を変更・追加することもある)：

- 併合 (Merge) の対称性：強い極小主義のテーゼと併合のみ仮説の射程
(Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 1 に基づく議論)
- GrammarXiv プロジェクト：容認性判断を含む言語事実および理論分析についてのオープンアクセスデータベースの開発について
- フェイズ (phase) の対称性：周期的移送 (Cyclic Transfer) と素性均衡 (feature-equilibrium) について
(Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 2 に基づく議論)
- 一致 (Agree) の対称性：多重一致、最小探査、素性均衡 (Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 3 に基づく議論)
- ラベル付けの対称性 (1)：Chomsky (2013, 2015) のラベル付けアルゴリズムの射程、内心性の位置づけ
(Narita (2014), Chomsky (2013), Chomsky (2015), Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 4 に基づく議論)
- ラベル付けの対称性 (2)：対称性と内心性
(Narita (2014), Chomsky (2013), Chomsky (2015), Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 4 に基づく議論)
- 日本語統辞法について：一致素性をめぐる考察
(Fukui (2006), Saito (2016), Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 4 に基づく議論)
- 言語の科学的説明：生成文法の展望と課題 (1)
(成田(準備中)、成田(2020)、Narita (2018)、チョムスキー(2016)に基づく議論)
- 移動の対称性 (1)：拡大投射原理 (EPP)、空範疇原理 (ECP)、および主語基準 (Subj(ect) Criterion) について
(Chomsky (2013), Chomsky (2015), Rizzi (2005, 2006, 2007) and Rizzi and Shlonsky (2007),

Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 5 に基づく議論)

10. 移動の対称性 (2) : 話題化 (Topicalization) と焦点移動 (focus-movement) について (Rizzi (1997), Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 5 に基づく議論)
11. 移動の対称性 (3) : Wh 移動について (Rizzi (1996), Narita and Fukui (forthcoming): Chapter 5 に基づく議論)
12. 言語理論の生物学的妥当性 (biological adequacy) をめぐる諸問題 (Narita (2010), Progovac (forthcoming): Chapter 5 に基づく議論)
13. 削除の対称性: 焦点内包型削除 (Focus-inclusive Deletion) の可能性 (Kimura and Narita (2021) に基づく議論)
14. 言語の科学的説明: 生成文法の展望と課題 (2) (成田(準備中)、成田(2020)、Narita (2018)、チョムスキー(2016) に基づく議論)

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法:

1. リアクションペーパー
2. 課題
3. レポート

9. 教科書および参考書:

講義で扱う予定の論考の一部を以下に提示する (適宜進捗状況や議論の内容に基づいて扱う内容を変更・追加することもある)。

Fukui, Naoki (2006). *Theoretical comparative syntax: Studies in macroparameters*. London/New York: Routledge.

Chomsky, Noam (2013). Problems of projection. *Lingua* 130:33-49.

Chomsky, Noam (2015). Problems of projection: Extensions. In *Structures, strategies and beyond: Studies in honour of Adriana Belletti*, ed. Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann, and Simona Matteini, 3-16. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

チョムスキー, ノーム(著)・聞き手=ジェームズ・マッギルヴレイ/訳=成田広樹 (2016). 『チョムスキー 言語の科学—ことば・心・人間本性』 (Chomsky, Noam, 2012. *The Science of Language: An Interview with James McGilvray*. Cambridge: Cambridge University Press. の翻訳). 岩波書店.

Narita, Hiroki (2010). The Tension between Explanatory and Biological Adequacy. A Review of Naoki Fukui's (2006) *Theoretical Comparative Syntax: Studies in Macroparameters*. *Lingua* 120: 1313-1323.

Narita, Hiroki (2018). Review of *The Minimalist Program: The Nature and Plausibility of Chomsky's Biolinguistics* by Fahad Rashed Al-Mutairi, Cambridge University Press, Cambridge, 2014. *English Linguistics* 35(1): 193-203.

Narita, Hiroki (2019). Neo-Cartesianism in Generative Grammar. *ICU Working Papers in Linguistics(ICUWPL) Vol. 7: Festschrift for Professor Tomoyuki Yoshida on his 60th Birthday*, pp.29-50.
https://icu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4683&item_no=1&page_id=13&block_id=28

成田広樹 (2020). 言語の科学的説明: その展望と課題. 日本言語学会第 161 回大会ワークショップ「理論言語学を科学哲学する: 生成文法、形式意味論、認知言語学の未来」. 東北学院大学. 2020 年 11 月 22 日.

成田広樹 (準備中). 言語の科学的説明: その展望と課題. 山泉実・窪田悠介 (編) 『言語学を科学哲学する』 (仮題). 開拓社

Narita, Hiroki, and Naoki Fukui (forthcoming). *Symmetrizing Syntax: Merge, Minimality, and Equilibrium*. Routledge.

Kimura, Hiroko, and Hiroki Narita (2021). Compound Wh-questions and Fragment Answers in Japanese: Implications for the Nature of Ellipsis. *Linguistic Inquiry* 52(1): 195-209.

Progovac, Ljiljana (2019). *A Critical Introduction to Language Evolution: Current Controversies and Future Prospects*. Springer.

Rizzi, Luigi (1996). Residual verb second and the Wh-criterion. In *Parameters and functional heads*, ed. Adriana

Belletti and Luigi Rizzi, volume 2, 63-90. Oxford: Oxford University Press.

Rizzi, Luigi. (1997). The fine structure of the left periphery. In *Elements of grammar: Handbook of generative syntax*, ed. Liliane Haegeman, 281-337. Dordrecht: Kluwer.

Rizzi, Luigi (2005). On some properties of subjects and topics. In *Proceedings of the XXX Incontro di Grammatica Generativa*, ed. Laura Bruge, Giuliana Giusti, Nicola Munaro, Walter Schweikert, and Giuseppina Turano. Venezia: Cafoscarina.

Rizzi, Luigi (2006). On the form of chains: Criterial positions and ECP effects. In *Wh-movement: Moving on*, ed. Lisa Lai-Shen Cheng and Norbert Corver, 97-133. Cambridge, MA: MIT Press.

Rizzi, Luigi (2007). On some properties of criterial freezing. In *STiL: Studies in Linguistics. CISCL Working Papers on Language and Cognition*, ed. Vincenzo Moscati, 145-158. Siena: Università degli studi di Siena.

Rizzi, Luigi (2016). Labeling, maximality and the head-phrase distinction. *The Linguistic Review* 33:103-127.

Rizzi, Luigi, and Uri Shlonsky (2007). Strategies of subject extraction. In *Interfaces + recursion = language?: Chomsky's minimalism and the view from semantics*, ed. Uli Sauerland and Hans-Martin Gartner, 115-160. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.

Saito, Mamoru (2016). (A) case for labeling: Labeling in languages without ϕ -feature agreement. *The Linguistic Review* 33:129-175.

1 0. 授業時間外学習：リーディングリストにある論文を予習し、課題を行う。

1 1. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

1 2. その他：なし

科目名：英語解析学各論／ Analytical Study of English (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：金子義明

コード：LB65405 科目ナンバリング：LHM-LIN302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語の主要構文の研究

2. Course Title (授業題目)：Investigating Major Constructions in English

3. 授業の目的と概要：英語のいくつかの主要構文をとりあげて、その統語特性と意味特性を解説する。扱われるトピックには、アスペクト表現、動詞の交替現象、名詞句移動、wh 移動、動名詞、tough 構文などが含まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course investigates syntactic and semantic properties of some major constructions in English within the framework of Generative Grammar. Topics include aspect expressions, verbal alternation phenomena, NP movement, wh-movement, gerund, tough constructions, and so on.

5. 学習の到達目標：

- 1) 英語の主要な構文の統語特性および意味特性を理解する
- 2) 構文に対する基本的な言語学的分析法を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand syntactic and semantic properties of major constructions in English and basic analytic methods for linguistic phenomena from the perspective of Generative Grammar.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この授業は、講義とディスカッションにより構成される。

第1回 ガイダンス

第2回 英語の文構造

第3回 ムードとモダリティ

第4回 アスペクト

第5回 動詞のクラスと交替現象

第6回 名詞句移動

第7回 疑問詞移動

第8回 関係節

第9回 That 補文と不定詞補文

第10回 コントロール現象

第11回 動名詞と派生名詞

第12回 Tough 構文と目的節

第13回 文副詞と VP 副詞

第14回 遂行動詞と発話行為

第15回 まとめとディスカッション

定期試験は行わない

8. 成績評価方法：

いくつかの課題 (50%) と学期末レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書 中村捷・金子義明 (編) 『英語の主要構文』 研究社.

参考書 原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社.

10. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習しておくこと (2 時間). 授業後は、授業内容を確認し、参考書等を活用して疑問点の解消に努めること (2 時間).

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB52206 科目ナンバリング：LHM-LIN309J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：形態論入門 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Morphology I

3. 授業の目的と概要：英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course investigates the nature and structure of words within the framework of Generative Grammar.

Topics include the place of word formation in relation to syntactic phenomena, morphological processes, and the nature of the lexicon.

5. 学習の到達目標：

- 1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
- 2) 形態論の基本概念を理解する。
- 3) 形態論の基本的分析法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand the basic concept of morphology and acquire basic analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Overview of the Phenomena (1)
- 3) Overview of the Phenomena (2)
- 4) Overview of the Phenomena (3)
- 5) Theoretical Preliminaries (1)
- 6) Theoretical Preliminaries (2)
- 7) Marantz' s Theory (1)
- 8) Marantz' s Theory (2)
- 9) Marantz' s Theory (3)
- 10) Baker' s Incorporation Theory (1)
- 11) Baker' s Incorporation Theory (2)
- 12) Baker' s Incorporation Theory (3)
- 13) Lexical Approaches to Valency Alternations (1)
- 14) Lexical Approaches to Valency Alternations (2)
- 15) Summary

8. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

9. 教科書および参考書：

初回に、講義内容に関するプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業の復習をしっかりとやること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LB62204 科目ナンバリング：LHM-LIN309J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：形態論入門 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Morphology II

3. 授業の目的と概要：英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is a continuation of Introduction to Morphology I, focusing on the nature and structure of words within the framework of Generative Grammar.

Topics include the place of word formation in relation to syntactic phenomena, morphological processes, and the nature of the lexicon.

5. 学習の到達目標：

- 1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
- 2) 形態論の基本概念を理解する。
- 3) 形態論の基本的分析法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand the basic concept of morphology and acquire basic analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Overview of Compound Types (1)
- 3) Overview of Compound Types (2)
- 4) Overview of Compound Types (3)
- 5) Root Compounds (1)
- 6) Root Compounds (2)
- 7) English Synthetic Compounds (1): Introduction
- 8) English Synthetic Compounds (2): Roeper and Siegel (1978)
- 9) English Synthetic Compounds (3): Selkirk (1982)
- 10) English Synthetic Compounds (4): Lieber (1983)
- 11) English Synthetic Compounds (5): Di Sciullo and Williams (1987)
- 12) English Synthetic Compounds (6): Syntactic Approaches (i)
- 13) English Synthetic Compounds (7): Syntactic Approaches (ii)
- 14) English Synthetic Compounds (8): Postscript on Inheritance
- 15) Summary

8. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

9. 教科書および参考書：

初回に、講義内容に関するプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業の復習をしっかりとやること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：7 単位数：2

担当教員：金子 義明 島 越郎

コード：LB53206 科目ナンバリング：LHM-LIN310J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：Topics in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。

1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

2) 討論者がコメントを加える。

3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：

①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：金子 義明

コード：LB55206 科目ナンバリング：LHM-LIN310J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論：極小主義によるアプローチ I

2. Course Title (授業題目)：English Syntax: A Minimalist Approach I

3. 授業の目的と概要：生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an intensive introduction to how various English constructions are analyzed in terms of key notions of the framework of the Minimalist Program. This course mainly consists of oral report by students and discussion by all of the participants.

5. 学習の到達目標：

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand how to analyze English sentences by the methodology of current generative grammar, develop English language skills necessary to precisely understand a fairly large amount of English text, and develop presentational skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、担当者による口頭発表と参加者によるディスカッションから構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

- 2 Grammar (1): Traditional Grammar (Oral report and discussion)
- 3 Grammar (2): Universal and Language Acquisition (Oral report and discussion)
- 4 Grammar (3): Parameters and Parameter Setting (Oral report and discussion)
- 5 Words (1): Lexical Categories and Functional Categories (Oral report and discussion)
- 6 Words (2): Determiners, Quantifiers, and Auxiliaries (Oral report and discussion)
- 7 Words (3): Categorization Problems and Grammatical Features (Oral report and discussion)
- 8 Structure (1): Phrases, Clauses, and Specifiers (Oral report and discussion)
- 9 Structure (2): Projections and Testing Structures (Oral report and discussion)
- 10 Structure (3): Structural Relations and Word Order (Oral Report and discussion)
- 11 Null Constituents (1): Null T in Indicative Clauses (Oral report and discussion)
- 12 Null Constituents (2): Null T and Null C in Finite Clauses (Oral report and discussion)
- 13 Null Constituents (3): Null C in Infinitive Clauses and Defective Clauses (Oral report and discussion)
- 14 Null Constituents (4): Null Heads in Nominals (Oral report and discussion)
- 15 まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

- 授業における発表および討論参加 (40%)
期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社

Andre Radford 著、金子義明・島越郎 (監訳) 『英語構文を分析する (上)』 開拓社

10. 授業時間外学習：授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：金子 義明

コード：LB65204 科目ナンバリング：LHM-LIN310J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語統語論：極小主義によるアプローチⅡ

2. Course Title (授業題目)：English Syntax: A Minimalist Approach II

3. 授業の目的と概要：生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an intensive introduction to how various English constructions are analyzed in terms of key notions of the framework of the Minimalist Program. This course mainly consists of oral report by students and discussion by all of the participants.

5. 学習の到達目標：

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand how to analyze English sentences by the methodology of current generative grammar, develop English language skills necessary to precisely understand a fairly large amount of English text, and develop presentational skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、担当者による口頭発表と参加者によるディスカッションで構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

- 2 Head Movement (1): Auxiliary Inversion and CP Recursion (Oral report and discussion)
- 3 Head Movement (2): Null Operators and V-to-T Movement (Oral report and discussion)
- 4 Head Movement (3): Auxiliary Raising and Negation (Oral report and discussion)
- 5 Head Movement (4): Do-support(Oral Report and discussion)
- 6 Wh-Movement (1): Wh-Movement and Driving Wh-Movement (Oral report and discussion)
- 7 Wh-Movement (2): Subject Questions and Pied-Piping (Oral report and discussion)
- 8 Wh-Movement (3): Wh-Movement as Copying (Oral report and discussion)
- 9 Wh-Movement (4): Constraint on movement (Oral report and discussion)
- 10 A-bar Movement (1): Wh-exclamatives and Relative clauses (Oral report and discussion)
- 11 A-bar Movement (2): Two movement accounts of restrictive relative clauses (Oral report and discussion)
- 12 A-bar Movement (3): Refining the Antecedent Raising analysis (Oral report and discussion)
- 13 A-bar Movement (4): Two sources for restrictive relative clauses (Oral report and discussion)
- 14 A-bar Movement (5): Other A-bar Movement constructions (Oral report and discussion)
- 15 まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

- 授業における発表および討論参加 (40%)
期末レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

Andrew Radford 著、金子義明・島越郎 (監訳)『英語構文を分析する (下)』開拓社

10. 授業時間外学習：授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：8 **単位数：**2

担当教員：金子 義明 島 越郎

コード：LB63206 **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**英語学の諸問題研究 II
2. **Course Title (授業題目)：**Topics in English Linguistics II
3. **授業の目的と概要：**英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の 3 部から構成される。
 - 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
 - 2) 討論者がコメントを加える。
 - 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。
4. **Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.
Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.
5. **学習の到達目標：**
 - ①英語学研究の最新動向を把握する
 - ②研究論文の実践的作成法が身に付く
 - ③効果的プレゼンテーション力が身に付く
6. **Learning Goals(学修の到達目標)：**The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.
7. **授業の内容・方法と進度予定：**
 - 1) Introduction
 - 2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
 - 15) Summary
8. **成績評価方法：**
期末レポート
9. **教科書および参考書：**
取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。
10. **授業時間外学習：**取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。
11. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
12. **その他：**なし